

【PM 学会中部支部】【IIBA 中部支部】2019 年 1 月度通算第 70 回 BABOK 合同研究会

議事録

1. 日時

2019 年 1 月 9 日（水） 18:30～20:30

2. 場所

(株)第一コンピューターソース 8 階会議室 2

3. 出席者（敬称略順不同）

川島 由久、小倉 友嗣、鳥本 昌孝、金高 由紀、中村 康司、加藤 奈穂子、鈴木 聡（記）

以上 8 名

4. 議題

- （1） 研究会参加者名簿の見直しについて
- （2） 今年度研究会テーマについて
- （3） 合宿の件

5. 議事

- （1） 研究会参加者名簿の見直しについて

これまで活動状況を問わず、一度でも参加実績がある方を研究会メンバーとして、開催通知や議事録、お知らせなどを送付してきましたが、近藤座長と相談の上、以下のルールで会員名簿をメンテナンスしてゆくことにし、出席メンバーに同意を頂きました。

対象の方：2 年間研究会の参加実績がない方

→個別に継続の意思確認をさせていただきます。確認の結果継続の意思がないと判断させて頂いた場合は名簿から削除し、以降案内は行いません。

- （2） 今年度研究会テーマについて

前回の議論で基本テーマ（縦軸）に DX（デジタルトランスフォーメーション）を置く事までは意見の一致を見た。今回は PPT（叩き台資料）を表示しながら前回の議論について、概要のおさらいから開始。

→研究テーマ案 1 は既に多くの書籍や研究で議論尽くされており、米国事例を基にした「イノベーション失敗ドライバ」の発見だけでは成果として弱い。どちらかといえば研究テーマ案 2 に近いが、「ビジネス分析の視点」で DX の推進力（ビジネスドライバ）を発見する案が、検討の余地があるのでは。

それにはそもそも DX が何を指すのか、意識合わせが必要との意見が出された。

一般的には IoT、AI、BigData などの先進的な IT 技術がキーワードになっているが、技術ベースではなく、ユーザが求めるものが何かを考えるべき。

モノからコトへ。

ユーザ視点では既に UI インフラはパソコンからスマートフォンに変わっており、スマートホンの活用が鍵では。2019 年に実現可能な内容であれば、研究活動が後追いになってしまう。DX をテーマとするのであれば今後 5 年の技術革新を見据えたテーマ設定が必要ではないか。

見えている次に来るひとつの革新は 5G、速度や精度が格段に速く、遅延が格段に少なくなると何がゴトとして実現可能になるのか。

ひとつには VR の精度。端末が現実の窓になる、たとえば遠隔授業もクラスに居る実感。介護見守りでも実態がそこにある実感。など。

研究テーマの具体案は出なかったが、次回継続して検討を進めてゆく。

(3) 合宿の件

合宿の企画を進めている近藤座長が鬼の霍乱でお休みだったため、具体的な連絡は別途メールなどでお伝えすることに決定した。

6. 次回予定

2月13日(第2水曜) 18:30~20:30 第一コンピュータソース 8階会議室 2

議題は合宿の報告と、活動テーマに付いて

7. その他

研究会後「居酒屋カリー」で懇親会。

ちょっとだけいいながら、22時まで議論は尽きませんでした。

参加者(敬称略順不同) : 鳥本 昌孝、金高 由紀、加藤 奈穂子、鈴木 聡